

普及活動情勢報告（令和3年7月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

安芸支部園芸部園芸研究会 総合部会を開催



6月24日、安芸支部園芸部園芸研究会がJA高知県あき支所で総合部会を開催し、生産者19人が参加しました。

農業改良普及課は、令和3園芸年度の試験展示圃成果として「ナスの下位側枝摘除の収量・品質及び作業性の改善に及ぼす影響」など、3課題について報告しました。生産者からは、下位側枝摘除について「どれくらい作業時間が短縮できるか？」と、作業速度向上に期待をもった質問が上がりました。

農業改良普及課は、今後も作業の効率化や省力化に関する調査研究に取り組み、その成果や情報を発信します。

ナスフザリウム立枯病対策には栽培初期の防除が重要！



6月28日、奈半利支部園芸研究会が勉強会を開催し、生産者5人が参加しました。

農業改良普及課は、前作で指導した「栽培初期に有効薬剤を使用する防除」等を組み込んだナスフザリウム立枯病の新防除体系が有効であったことを報告しました。

参加者も新防除体系を実施し、ナスフザリウム立枯病の発生が少なかったことから、効果を実感した様子でした。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力し、ナスフザリウム立枯病の防除指導を行います。

ナスの生体情報の見える化に向けて ～IoPプロジェクトより～



6月29日、高知大学が取り組む「ナスの生理生態情報の見える化」に関する研究報告会が開催され、ナス生産者6人と関係機関4人が参加しました。

農業改良普及課は開催を支援し、高知大学からは、研究目的やナスの光合成モデルの確立による光合成量や蒸散量等の状態の見える化について説明があり、本園芸年度の分析結果が報告されました。

生産者からは、「葉面積指数や蒸散量の他に土壌状態も併せて把握できればかん水管理に活かせる」等研究に期待する声もありました。

今後も農業改良普及課は、IoPプロジェクトの研究への支援とともに、生産者および関係機関と情報を共有していきます。

令和3年度第1回農業改良普及推進協議会開催



6月30日、田野町ふれあいセンターで農業改良普及推進協議会を開催し協議会構成員（農家代表者、JA、市町村）20人が出席しました。

会では、令和3年度普及指導計画の概要等について説明を行った後、出席者との意見交換を行いました。

出席者からは「SAWACHIについては、不在時でもハウス内環境の異常を通知する警報機能がよい」「移住者やIターン者への支援も必要だが、農家の子供や孫への支援も更に充実してほしい」等の意見が出されました。

農業改良普及課は、構成員からいただいた意見や提案を今後の普及活動に活かして行きます。

芸東オクラ部会現地検討会を開催



7月5日、JA芸東集出荷場オクラ部会は、室戸市佐喜浜町で現地検討会を開催し、生産者8人が参加しました。

農業改良普及課室戸支所は、収穫最盛期の樹勢管理について指導した後、現地ほ場でオクラの花が咲いている位置を確認しながら追肥の種類やタイミングなどについて検討しました。生産者は、樹勢に応じた摘葉や肥培管理を行い、品質の良いオクラを作ろうと熱心に観察していました。

農業改良普及課室戸支所は今後も、芸東オクラ部会に対して品質・収量向上に向けた指導を続け、生産者の所得向上を目指します。

酒米の振興



高知県安芸市の東川地区では、清涼な水・空気のなかで、高知県特産酒造好適米「吟の夢」の生産が行われています。

農業改良普及課は、田植えから一ヶ月ほどたった7月上旬から、生産者らと生育状況を現地ほ場で観察しながら、生育調査に基づいた追肥の施用方法の検討などを行ってきました。参加者は今後、台風や病害虫被害などにあわず、無事に収穫を迎えて、高品質な日本酒が生まれるよう前向きに検討しました。

今後も農業改良普及課は、気象災害やコロナ禍などの逆境に負けず、伝統ある酒米産地の維持、発展に向けて支援していきます。